
老人クラブにおけるソーシャル・キャピタルの 測定と関連要因についての考察

関 根 薫

抄録 ●

本稿では、リソース・ジェネレーターを用いて老人クラブ会員のソーシャル・キャピタルの測定を行い、その特徴を明確化するとともに、ソーシャル・キャピタルに影響を及ぼす社会的要因について考察を行った。分析の結果、「安心・安全」分野のリソースの獲得率が高く、他方「専門知識・技術」分野のリソースの獲得率が低い傾向にあった。また、地域類型による比較では、「非都市部」において「安心・安全」分野のリソース獲得率が有意に高い傾向が認められた。そして、各分野のリソース獲得数と市町ならびに老人クラブのデータとの関連については、「総人口」、「人口密度」、「平均年齢」、「会員数」、「活動状況」といった変数との間に有意な相関関係が認められた。

Key words : リソース・ジェネレーター, ソーシャル・キャピタル, 老人クラブ,
地域類型

はじめに

現在、急速に社会の高齢化が進む日本では、地域社会における公的な医療・介護サービス、また生活支援に関わる体制が大きな転換期を迎えている。特に2014年6月には、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に地域包括ケアシステムを構築していくことを目指した「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備に関する法律（医療介護総合確保推進法）」が可決・成立した。地域包括ケアシステムとは、生活上の安心・安全・健康を確保するために、医療・介護・福祉を含めた様々な生活支援サービスが

日常生活圏で適切に提供できるような地域での体制であり、今後増大することが予測される要介護高齢者に対応するために掲げられた政策目標である。このシステムの担い手としては、医療・介護の専門職、事業者のみならず、NPO 法人や地域組織・団体、民間企業、また地域住民によるボランティア等も想定されており、その運用には地域社会にサポート・ネットワークが築かれるとともに互酬性、信頼、規範などが醸成されることが不可欠となる。近年、こうした地域社会における個人・集団・組織同士の結合や制御、またコミットメントなどを通して得られる諸資源、諸利益の価値の総体を意味する概念としてソーシャル・キャピタルが注目されており、多様な学問領域において研究が蓄積されるとともに、政策立案等の場面においても重要な概念として導入されてきている。また厚生労働省の「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」においても、近年の地域保健を取り巻く状況の変化¹⁾に的確に対応する上で、ソーシャル・キャピタルを活用した住民との協働により地域保健基盤を構築し、地域住民の健康保持及び増進ならびに地域住民が安心して暮らせる地域社会の実現を目指した地域保健対策の総合的な推進の必要性が示されている²⁾。

こうした状況において、地域社会における代表的な地縁型組織である老人クラブがソーシャル・キャピタルを通して果たしてきた役割は大きいと考える。老人クラブは、会員の日常生活圏である小地域を基盤とする自主組織であり、これまで「支え合い」活動として、交流サロンや健康・介護予防教室などの「通いの場づくり」や、独居高齢者に対する声掛け、安否確認、見守り、付き添い、軽作業、家事手伝い、配食・移送サービス等の「生活支援活動」を全国で組織的に展開してきている。先行研究においてこうした、老人クラブが実施している個々の活動内容についての調査研究は見られるものの、老人クラブ内の人間関係や協働行動、またサポート・ネットワーク等に着目し、実証的に老人クラブにおいて会員個人が得られるソーシャル・キャピタルを測定した研究は未だ見られない。また、そうしたソーシャル・キャピタルに影響を及ぼす社会的要因についての分析もなされていない。

そこで、本稿では、三重県に所在する1,675単位老人クラブを対象とした実態調査結果を検討対象とし、リソース・ジェネレーター (Resource Generator)

を用いて老人クラブ会員のソーシャル・キャピタルの測定を行い、その特徴を明確化するとともに、ソーシャル・キャピタルに影響を及ぼす社会的要因について考察することを目的とする。

1. ソーシャル・キャピタルの概念

ソーシャル・キャピタルとは、インフラストラクチャーを意味する物的資本とは異なり、様々な種類のアクター（個人・集団・組織）が他のアクターとの結合や社会的関係への制御やコミットメントなどを通して得る諸資源、諸利益の価値の総体を意味する概念である³⁾。ソーシャル・キャピタルの定義の変遷をまとめている牧田によると、この概念が使われるようになったのは、1916年、アメリカの学校内地域センターでの議論が最初であり、そこでは、緊密な近隣関係の社交ネットワークを表す概念として考えられていたとのことである。その後、社会学者の中からも人間と社会関係のダイナミズムを説明する概念が求められ、Bourdieuによって現在の定義に近い社会関係資本という考え方が提起されたが、その時点でも「信頼」、「規範」、「ネットワーク」といったソーシャル・キャピタルのもたらす豊かな可能性については触れられていなかったとされている⁴⁾。Putnamは、1993年に刊行した『哲学する民主主義』において、ソーシャル・キャピタルを「調整された諸活動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴」と定義している⁵⁾。稲葉はこの定義は「特徴」と述べるだけでその実態には言及していないことから、定義として成立していないとの批判があるものの、最も人口に膾炙したものであり、その後の社会関係資本研究の呼び水となったと述べている⁶⁾。但し、ソーシャル・キャピタルには、未だ統一された定義は無く、表1に示したように多様な定義がなされている。

また、Putnamはソーシャル・キャピタルの形式を、メンバーの選択やあるいは必要性によって、内向きの志向を持ち、排他的なアイデンティティと等質な集団を強化するタイプの「結束型」と、外向き志向で外部資源との連携や情報伝播において優れているタイプの「橋渡し型」とに区別している（表2）。そして「結束型」のソーシャル・キャピタルの例としては、民族ごとの友愛組

表 1. 様々なソーシャル・キャピタルの定義

R. パットナム	人々の協同行動を活発にすることによって社会の効率性を改善できる、信頼、規範、ネットワークといった社会組織の特徴。
F. フクヤマ	信頼が社会全体あるいは社会の特定の部分に広く行き渡っていることから生じる能力。
世界銀行	ソーシャル・キャピタルとは、社会的なつながりの量・質を決定する制度、関係、規範である。社会的なつながりは経済の繁栄や経済発展の持続に不可欠である。ソーシャル・キャピタルは単に社会を支えている制度ではなく、社会的つながりを強くするための糊の役割を果たしているのである。
OECD	規範や価値観を共有し、お互いを理解しているような人々で構成されたネットワークで集団内部または集団間の協力関係の増進に寄与するもの。
W. ベイカー	個人的なネットワークやビジネスのネットワークから得られる資源であり、情報・アイデア・指示方向・ビジネスチャンス・富・権力や影響力・精神的サポート・善意・信頼・協力。

(資料) 内閣府「ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」2003年。

織や、教会を基盤とした女性読書会、洒落たカントリークラブ、また公民権運動、青年組織、世界教会主義の宗教組織など、様々な社会的亀裂をまたいで人々を包含するネットワークなどをあげている。Putnam は、「結束型」のソーシャル・キャピタルは特定の互酬性を安定させ、連帯を動かしていくのに都合が良いとし、その例として、少数民族集団における密なネットワークがコミュニティの中の比較的恵まれていないメンバーにとって決定的に重要な精神的・社会的支えとなり、また同時に地域の起業家にとっては、事業立ち上げの財源、市場、そして信頼できる労働力を供給するものとなる点をあげている。他方、Putnam は「橋渡し型」の例として、職探しの場面や政治的な同盟関係において、「弱い」つながりが、自分と遠く離れた異なるサークルの中で動く知り合いを結びつけることによって自分と同質の親類や親密な友人よりも有価値となる点をあげており、「橋渡し型」のソーシャル・キャピタルは、より広いアイデンティティや、互酬性を生み出すことができると述べている⁷⁾。

そしてPutnam は、ソーシャル・キャピタルが豊かな社会では、相互の信頼や協力が得られるため、社会の効率性が高まるとされるが、他方、ソーシャル・キャピタル自体の資源量が階層間で異なり、不平等に偏在することから、ソーシャル・キャピタルが格差拡大を助長することも指摘している⁸⁾。

表 2. 結束型と橋渡し型の比較

	結合型	橋渡し型
形態	フォーマル	インフォーマル
結びつきの強さ	強い	弱い
組織の地理的範囲	狭い, 地域限定	広い, 拡散的
組織の使命や志向	内向き	外向き
組織への帰属	排他的 (exclusive)	包括的 (inclusive)
帰属の基盤	共同性	公共性
コミュニティー	農村型	都市型
イメージ※	熱い	ちょっとした
対比表現	近所付き合い	遠距離交際
強み	安定性	革新性
弱み	保守性	不安定性

(資料) 地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあるり方に関する研究班「住民組織活動を通じたソーシャルキャピタルの醸成・活用にかかる手引き」2015年, 25頁.
 ※亀岡誠「現代日本人の絆—「ちょっとしたつながり」の消費社会論」日本経済新聞出版社, 2011年による.

2. ソーシャル・キャピタルの測定

ソーシャル・キャピタルの測定については, その概念自体が抽象的であり, さらに機能的な定義にしても「信頼」, 「規範」, 「ネットワーク」といった異なる次元の要素を持つ規定となっているため, その定量的な測定は, 非常に難しく, その手法が確立しているわけではない⁹⁾. Putnam は, アメリカの各州のソーシャル・キャピタルの平均を評定するために, 「コミュニティ組織生活の指標」, 「公的問題への参加の指標」, 「コミュニティボランティア活動の指標」, 「インフォーマルな社交性の指標」, 「社会的信頼の指標」といった5つのカテゴリーに関係する14の独立した指標群を組み合わせたソーシャル・キャピタル・インデックスを作成している (表3).

そしてPutnam は, これらの14の指標は内部相関が高く, 単一次元を構成しており, コミュニティを基盤としたソーシャル・キャピタルの, 互いに関係しているが区別できる側面を測定していると述べている. またこの指標を用いた分析結果において, アメリカの各州における差は大きく, 高ランクと低ランクの州の間の比率が3対1になることを明らかにしている¹⁰⁾.

Putnam によるソーシャル・キャピタル研究の後, 様々な学問領域の研究者,

表3. Putnam (2000) によるソーシャル・キャピタル・インデックス

項 目	指標との相関
コミュニティ組織生活の指標	
前年に地域組織の委員を務める (%)	0.88
前年に何らかのクラブや組織の役員を務める (%)	0.83
人口1,000人当たりの市民・社会組織	0.78
前年のクラブ会合出席の平均回数	0.78
グループ所属の平均数	0.74
公的問題への参加の指標	
大統領選挙での投票率 (1988年および1992年)	0.84
前年に地域や学校に関する公的会合に出席 (%)	0.77
コミュニティボランティア活動の指標	
人口1,000人当たりの非営利 (501条[C] 3項) 組織数	0.82
前年のコミュニティ事業への平均参加回数	0.65
前年のボランティアへの平均参加回数	0.66
インフォーマルな社交性の指標	
「友人を訪ねるのに多くの時間を使う」賛意	0.73
前年の家庭における歓待の平均回数	0.67
社会的信頼の指標	
「大半の人は信頼できる」への賛意	0.92
「大半の人は正直である」への賛意	0.84

(資料) ロバート・D・パットナム著、柴内康文訳『孤独なボウリングー米国民コミュニティの崩壊と再生』柏書房、2006年、357頁。

国や国際機関、そしてコミュニティレベルでの調査・研究・プロジェクトが始まっており、特に欧米の先進諸国においてソーシャル・キャピタルに対する関心が高まっている¹¹⁾。特にイギリスでは各省庁がソーシャル・キャピタルを測定する調査を実施しており、その代表的な測定指標としてイギリス国家統計局 (Office for National Statistics) が健康推進機構 (Health Development Agency) から資金を受けて作成した調査マトリックスがあげられる (表4)。

国内においては、内閣府国民生活局がPutnamにより示された「ネットワーク」、「信頼」、「規範」の3つの切り口を踏まえながら、イギリス国家統計局の調査項目も参考にして作成した測定指標が代表的なものとしてあげられる¹²⁾。この測定指標では、構成要素として「つきあい・交流」、「信頼」、「社会参加」が設定され、それぞれの構成要素の中で「近隣でのつきあい」、「社会的な交流」、「一般的な信頼」、「相互信頼・相互扶助」、「社会的活動への参加」等に関する

表 4. イギリス国家統計局（2002）の調査マトリックス

次 元	測定可能な側面
社会参加	<ul style="list-style-type: none"> -所属している文化、レジャー、社会グループの数 <ul style="list-style-type: none"> -関与の頻度と強度 -ボランティア団体との関わり <ul style="list-style-type: none"> -関与の頻度と強度 -宗教活動
ソーシャル・ネットワークと ソーシャル・サポート (ネットワーク)	<ul style="list-style-type: none"> -親戚、友人、隣人と面会・会話の頻度 -仮想的なネットワーク — 接触の頻度と強度 -近くに住む親密な友人や親戚の数 -援助を頼める人 -援助してくれる人 -生活に対する知覚されたコントロール -生活満足度
互酬性と信頼 (共有された規範と価値)	<ul style="list-style-type: none"> -あなたに似ている他者への信頼 -あなたに似ていない他者への信頼 -親切にしてくれる人とそうでない人 -共有された価値の認識
市民参加（協力）	<ul style="list-style-type: none"> -様々なレベルの機関に対する信頼 -イベントに影響を与える能力の認識 -地方もしくは国情についての情報アクセス -公務員または政治家との接触頻度、地域活動団体への参加頻度 -投票傾向
地域社会の状況 (共有された規範と価値)	<ul style="list-style-type: none"> -物理的環境の状況 -地域の施設 -その地域での生活の楽しみ -犯罪の恐れ

(資料) Hrper, R. The Measurement of Social Capital in the United Kingdom, 2002, p5.
(<http://www.oecd.org/unitedkingdom/2382339.pdf>)

質問項目が設定され調査が実施されている（表5）。

また、この内閣府国民生活局による構成要素の枠組みに沿って日本総合研究所は2007年に調査項目を作成し調査を実施している。内閣府国民生活局の測定指標とは、相互信頼・相互扶助の構成要素が異なり、「一般的な信頼」と「旅先での信頼」に関する項目にまとめられている¹³⁾。

栗島らは、これらの Putnam のソーシャル・キャピタル・インデックスならびにその系譜を継ぐ測定指標は、ソーシャル・キャピタルを個人が属する集団の特性とする考え方に基づいたものであり、ソーシャル・キャピタルの共有財

表 5. 内閣府国民生活局（2003）によるソーシャル・キャピタルの測定指標

構成要素	調査項目
つきあい・交流 (ネットワーク)	<p>【近隣でのつきあい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣近所とのつきあいの程度 ・隣近所とつきあっている人の数 <p>【社会的な交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人・知人とのつきあい頻度 ・親戚とのつきあい頻度 ・スポーツ・趣味等活動への参加 ・職場の同僚とのつきあい頻度
信 頼 (社会的信頼)	<p>【一般的な信頼】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な人への信頼 ・見知らぬ土地での人への信頼 <p>【相互信頼・相互扶助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の人々への期待・信頼 ・友人・知人への期待・信頼 ・親戚への期待・信頼 ・職場の同僚への期待・信頼
社会参加 (互酬性の規範)	<ul style="list-style-type: none"> ・地縁的活動への参加 ・ボランティア・NPO・市民活動への参加

(資料) 内閣府国民生活局「平成14年度 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」2003年、38頁。

(クラブ財) 的側面を重視し、社会の成員全員に何らかの機能を果たしていると考えられる立場にあるとしている。その一方で栗島らは、ソーシャル・キャピタルの私的財的側面を重視し、個人に何らかの機能を果たしていると考えられる立場もあり、その測定指標の一つとして新たに提案されたリソース・ジェネレーター¹⁴⁾を示している¹⁵⁾。リソース・ジェネレーターを用いた研究としては、Webber and Huxley の研究があげられ、リソース・ジェネレーター UK がイギリスの一般市民への使用に適しているか信頼性と妥当性について検証がなされている。そして項目とスケールの間のパフォーマンスに多少のばらつきがあるものの、良好な心理測定特性を有していることが示されている¹⁶⁾。このリソース・ジェネレーター UK はイギリス社会の文脈を背景に作成されたものであることから、その後、栗島らにより日本での検討に馴染むリソース・リストが開発され国内で調査分析が行われている。栗島らのリソース・リストでは、「生活満足度」、「安心・安全」、「コミュニティ・ガバナンス」、「経済的安定」、

「健康・福祉」, 「専門知識・技術」という6つの分野が設定され, 分野ごとに情報提供・共有に関するものから物理的・金銭的なサポートにいたるまでの5つの具体的なリソースが設定されている¹⁷⁾. 本稿においても, この栗島らによって開発されたリソース・リストを用いて老人クラブ会員のソーシャル・キャピタルの測定と関連要因についての分析を試みる.

3. 調査の概要

(1) 調査期間・対象・方法

本調査は自計式調査票を用い, 三重県老人クラブ連合会に加盟している1,675単位老人クラブの代表者を対象に実施した. 調査票の配布・回収は三重県老人クラブ連合会に委託し, 各市町老人クラブ連合会より単位老人クラブ代表者へ配布・回収を実施した. 調査期間は, 2017年8月17~2018年2月28日である. 有効回答数は1,081件(有効回答率64.5%)であった.

(2) 老人クラブの概要

老人クラブは, 地域を基盤とする高齢者の自主組織であり, 主に戦後に社会福祉協議会の協力によって全国的に広がった. 現在では, クラブ相互の連絡調整を図り, より広域的な共同事業を実施するために, 市区町村, 都道府県・指定都市, 全国の各段階にそれぞれ連合会を組織した全国的なネットワークを有する高齢者組織となっている¹⁸⁾. 厚生労働省福祉行政報告例によると, 現在の老人クラブの規模は2018年3月末時点で全国のクラブ数9万8,592, 会員数548万8,258人であり, 1クラブ当たりの会員数は55.7人となっている. 1973年に策定された「老人クラブ運営指針」¹⁹⁾では, 老人クラブの目的を「老人クラブとは, 地域を基礎とする高齢者の自主的な組織として, ①仲間づくりを通して, 生きがいと健康づくり, 生活を豊かにする楽しい活動を行うとともに, ②その知識や経験を生かして, 地域の諸団体と協働し, 地域を豊かにする社会活動に取り組み, ③明るい長寿社会づくり, 保健福祉の向上に努めることを目的とする。」と規定している. この目的に基づき, 老人クラブでは個々の地域ごとに多種多様な活動が展開されているが, 活動内容は大きく, 健康づくり, 趣味文

化・文化・レクリエーション活動、学習活動など会員自身の生活向上や居場所づくりを中心とした「生活を豊かにする活動」と、友愛訪問・ボランティア活動・社会奉仕の日²⁰⁾、伝承活動・世代交流活動、作業・生産・環境美化・リサイクル活動、提言・提案活動など、社会貢献活動を中心とした「地域を豊かにする社会活動」に別けられる。

(3) 本調査で用いたリソース・リスト

先述したように、本調査では、栗島らによって開発されたリソース・リストを用いて、回答者の所属する老人クラブ内で得られるリソースについて回答を求めた(表6)。但し、本調査の調査対象者が65歳以上の高齢者(単位老人クラブ代表者)であることから栗島らが作成したリソース・リストのうち一部の内容を変更した²¹⁾。また、ソーシャル・キャピタルと老人クラブの関係を把握するために、リソースを獲得した相手(獲得先)を老人クラブ内の会員に限定して調査を実施した。

4. 結果

(1) リソースの獲得率

本調査では、表6で示したリソース・リストの各項目に対して、老人クラブ内にそのような方が「いる」、「いない」の2択で回答を求めており、「いる」と回答した割合を獲得率としている(表7)。

まず全体で見ると、獲得率が高かったリソースとしては、「2-2 お互いに近況を確かめ合う」が71.4%と最も高く、以下、「2-5 火事や事故、災害時に自宅まで駆けつけてきてくれる」(69.8%)、「3-2 一緒に趣味を楽しんだり、体を動かしたりする」(69.7%)、「2-3 災害時の避難場所や安否確認方法の情報を共有している」(66.6%)、「2-1 お互いの家族構成を把握している」(62.4%)と続いている。他方、獲得率が低かったリソースとしては、「6-1 英語の通訳や翻訳をしてもらう」が2.8%と最も低く、以下「6-3 大学や研究機関についてがある(もしくは直接的な知り合いが大学・研究機関の関係者)」(4.9%)、「3-5 地元メディア(テレビ局、ラジオ局、新聞社、出版社など)につてがある」

表6. リソース・リスト

分野	リソース
生活満足度	1-1 おいしいお店（レストラン等）を教えてもらう 1-2 家電製品やパソコンのトラブルが起こったときにたよりになる 1-3 壊れた家具や自転車の修理を頼める 1-4 病気の時などに自分の代わりにちょっとした買い物が頼める 1-5 自分で運転できない時（免許がない場合）に、自動車で目的地まで乗せていてもらえる
安心・安全	2-1 お互いの家族構成を把握している 2-2 お互いに近況を確かめ合う 2-3 災害時の避難場所や安否確認方法の情報を共有している 2-4 旅行・帰省等で家を長期に留守にする際に、留守中をお願いできる 2-5 火事や事故、災害時に自宅まで駆けつけてきてくれる
コミュニティ・ガバナンス	3-1 地域の歴史や文化についてよく知っている 3-2 一緒に趣味を楽しんだり、体を動かしたりする 3-3 議員や行政（自治体）に対するつてがある（もしくは直接的な知り合いが議員・行政関係者） 3-4 地域の自然や環境について一緒に話ををする 3-5 地元メディア（テレビ局、ラジオ局、新聞社、出版社など）につてがある（もしくは直接的な知り合いがメディア関係者）
経済的安定	4-1 近所の安売りの店や特売品の情報を教えてくれる 4-2 財産管理や各種契約などについて相談できる人や機関を紹介してくれる 4-3 困った時に少額のお金を貸してくれる 4-4 保証人になることを頼める 4-5 自分や家族の就職先（パート、アルバイトを含む）を斡旋してくれる
健康・福祉	5-1 家族の介護や子や孫の事について相談できる 5-2 自分（や家族）の健康や病気について相談できる 5-3 （一時的に）家族の介護や世話を頼める 5-4 評判の良い病院、介護施設、保育所、支援組織・制度などの情報を教えてくれる 5-5 自分が病気や障害を抱えた時に物理的なサポート（介護等）を頼める
専門知識・技術	6-1 英語の通訳や翻訳をしてもらう 6-2 お金に関するアドバイス（保険や投資、借金など）をしてくれる 6-3 大学や研究機関につてがある（もしくは直接的な知り合いが大学・研究機関の関係者） 6-4 法律や公的な制度についての専門的な知識を持っている 6-5 医療に関する専門的な知識・技術を持っている（医師・薬剤師）

（資料）栗島英明、佐藤俊、倉阪秀史、松橋啓介「Resource generatorによる地域住民のソーシャル・キャピタルの測定と地域評価との関連分析－千葉県市原市を事例に－」

『土木学会論文集G（環境）』Vol.71, No.6, 2015年, II_93頁.

※栗島らが作成したリソースリストのうち、1-2, 4-2, 5-1, 5-3については、本調査対象者の現状に合わせて内容を筆者により変更した。

表7. リソースの獲得率

分野	リソース	獲得率： 全体	獲得率：地域類型別		
			都市部	非都市部	χ^2
生活満足度	1-1 おいしいお店（レストラン等）を教えてもらう	52.0	51.8	51.9	0.000
	1-2 家電製品やパソコンのトラブルが起こったときにたよりになる	25.5	25.2	25.9	0.058
	1-3 壊れた家具や自転車の修理を頼める	27.2	24.2	30.7	4.574*
	1-4 病気の時などに自分の代わりにちょっとした買い物頼める	43.6	38.3	50.0	11.829**
	1-5 自分で運転できない時（免許がない場合）に、自動車でも目的地まで乗せていってもらえる	53.7	51.8	55.8	1.354
安心・安全	2-1 お互いの家族構成を把握している	62.4	58.8	66.9	5.983*
	2-2 お互いに近況を確かめ合う	71.4	71.3	71.4	0.001
	2-3 災害時の避難場所や安否確認方法の情報を共有している	66.6	60.5	74.3	18.445**
	2-4 旅行・帰省等で家を長期に留守にする際に、留守中をお願いできる	48.5	46.5	50.8	1.560
	2-5 火事や事故、災害時に自宅まで駆けつけてきてくれる	69.8	64.1	77.2	17.386**
コミュニティ・ガバナンス	3-1 地域の歴史や文化についてよく知っている	44.9	44.7	45.2	0.028
	3-2 一緒に趣味を楽しんだり、体を動かしたりする	69.7	71.5	67.5	1.661
	3-3 議員や行政（自治体）に対するつてがある（もしくは直接的な知り合いが議員・行政関係者）	46.4	46.3	46.8	0.023
	3-4 地域の自然や環境について一緒に話をする	61.8	58.4	65.9	5.030*
	3-5 地元メディア（テレビ局、ラジオ局、新聞社、出版社など）につてがある	6.4	6.8	6.1	0.162
経済的安定	4-1 近所の安売りの店や特売品の情報を教えてくれる	35.6	36.7	34.1	0.606
	4-2 財産管理や各種契約などについて相談できる人や機関を紹介してくれる	16.8	15.4	18.3	1.279
	4-3 困った時に少額のお金を貸してくれる	23.3	19.7	28.0	8.344**
	4-4 保証人になることを頼める	9.9	7.8	12.4	5.196*
	4-5 自分や家族の就職先（パート、アルバイトを含む）を斡旋してくれる	7.4	7.6	6.9	0.156
健康・福祉	5-1 家族の介護や子や孫の事について相談できる	40.3	38.3	42.6	1.618
	5-2 自分（や家族）の健康や病気について相談できる	51.0	47.7	55.0	4.518*
	5-3（一時的に）家族の介護や世話を頼める	26.3	24.0	29.1	2.893†
	5-4 評判の良い病院、介護施設、保育所、支援組織・制度などの情報を教えてくれる	54.3	53.5	55.0	0.204
	5-5 自分が病気や障害を抱えた時に物理的なサポート（介護等）を頼める	24.0	23.8	24.1	0.011
専門知識・技術	6-1 英語の通訳や翻訳をしてもらう	2.8	3.1	2.1	0.755
	6-2 お金に関するアドバイス（保険や投資、借金など）をしてくれる	7.4	6.6	8.2	0.853
	6-3 大学や研究機関につてがある（もしくは直接的な知り合いが大学・研究機関の関係者）	4.9	5.5	4.0	1.130
	6-4 法律や公的な制度についての専門的な知識を持っている	12.0	11.1	13.0	0.732
	6-5 医療に関する専門的な知識・技術を持っている（医師・薬剤師）	13.4	14.1	12.4	0.534

** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

(6.4%)、「4-5 自分の家族の就職先（パート、アルバイトを含む）を斡旋してくれる」・「6-2 お金に関するアドバイス（保険や投資、借金など）をしてくれる」（7.4%），と続いている。このように，獲得率が高かった上位5項目のうち4項目は「安心・安全」の分野に含まれるリソースであった。他方，下位については5項目のうち3項目は「専門知識・技術」の分野に含まれるリソースであった。

次に，地域類型別にリソースの獲得率を確認する。本稿では，地域類型として「都市部」と「非都市部」の2カテゴリーで分析を行った。「都市部」については，地域の土地利用上の特性により類型化された農業地域タイプの第1次分類²²⁾で設定されている「都市的地域」の基準指標²³⁾に該当する市町を「都市部」とし，「都市的地域」の基準に該当しない市町を「非都市部」として分類した。この2類型で各リソースの獲得率を比較し²⁴⁾， χ^2 検定を行ったところ，統計的に有意差が認められたリソースは全て「非都市部」の方が獲得率が高く，「2-3 災害時の避難場所や安否確認方法の情報を共有している」が13.8ポイント差と最も類型間の差が大きかった。その他，有意差が認められ，かつ類型間の差が大きかったリソースは，「2-5 火事や事故，災害時に自宅まで駆けつけてきてくれる」（13.1ポイント差），「1-4 病気の時などに自分の代わりにちょっとした買い物が頼める」（11.7ポイント差），「4-3 困った時に少額のお金を貸してくれる」（8.3ポイント差），「2-1 お互いの家族構成を把握している」（8.1ポイント差）と続いている。他方，類型間の獲得率に有意差が認められず，かつ差が小さかったリソースとしては，「1-1 おいしいお店（レストラン等）を教えよう」（0.1ポイント差），「2-2 お互いに近況を確かめ合う」（0.1ポイント差），「5-5 自分が病気や障害を抱えた時に物理的なサポート（介護等）を頼める」（0.3ポイント差）などがあがっている。

（2）各分野における平均リソース獲得数の地域類型別比較

表6で示したように，リソース・ジェネレーターでは，6つの分野にそれぞれ5つのリソースが設定されていることから，「いる」に1点，「いない」に0点を付し，単純加算して得点化し，分野ごとにリソース獲得数の平均値を求め

表 8. 各分野における平均リソース獲得数の地域類型別比較

分 野	都市部		非都市部		t 値
	平均値	SD	平均値	SD	
1. 生活満足度	1.91	1.65	2.14	1.68	-2.01*
2. 安心・安全	3.01	1.67	3.41	1.58	-3.53**
3. コミュニティ・ガバナンス	2.28	1.41	2.31	1.46	-0.39
4. 経済的安定	0.87	1.10	1.00	1.21	-1.59
5. 健康・福祉	1.87	1.74	2.06	1.75	-1.55
6. 専門知識・技術	0.40	0.74	0.40	0.78	0.13
全リソース	10.35	6.76	11.32	6.89	-2.07*

** $p < .01$ * $p < .05$

た。そして t 検定を用いて、地域類型別に 6 分野ならびに全体におけるリソース獲得数の平均値の比較を行った（表 8）。

まず獲得数の平均値を確認すると、「全リソース」では、「都市部」が 10.35 であるのに対し、「非都市部」は 11.32 と「非都市部」の方が平均値が高く、かつ t 検定においても 5% 水準で有意差が認められた。次に 6 分野の平均値を確認すると、「安心・安全」分野が「都市部」3.01、「非都市部」3.41 と両地域ともに最も高く、次いで「コミュニティ・ガバナンス」が「都市部」2.28、「非都市部」2.31 と高かった。他方、「専門知識・技術」分野は「都市部」ならびに「非都市部」のいずれの地域においても 0.40 と最も低く、次いで「経済的安定」分野が「都市部」0.87、「非都市部」1.00 と低かった。これら 6 分野のうち「生活満足度」分野については t 検定において 5% 水準で、また「安心・安全」分野については 1% 水準で、地域類型間に有意差が認められ、いずれの分野についても「非都市部」の方が平均値が高いという結果であった。

（3）各分野のリソース獲得数と市町および老人クラブ内データとの相関関係

次に各分野のリソース獲得数と市町ならびに老人クラブ内のデータとの関係を確認するために相関分析を行った。市町のデータについては 2015 年の国勢調査より三重県内各市町の「総人口」、「人口密度」、「平均年齢」の 3 変数を用いた。他方、老人クラブ内のデータについては、各クラブの「男性会員数」、「女

表9. 各分野のリソース獲得数と市町および老人クラブ内データとの相関関係

分野	市町データ*			老人クラブ内データ		
	総人口	人口密度	平均年齢	男性会員数	女性会員数	活動状況
1. 生活満足度	-0.05	-0.05	0.04	0.03	0.04	0.15**
2. 安心・安全	-0.09*	-0.10**	0.08*	0.03	0.00	0.14**
3. コミュニティ・ガバナンス	-0.02	-0.01	0.00	0.13**	0.10**	0.23**
4. 経済的安定	-0.04	-0.05	0.05	0.02	0.03	0.13**
5. 健康・福祉	-0.03	-0.06	0.05	0.05	0.05	0.14**
6. 専門知識・技術	0.02	-0.01	-0.01	0.03	0.03	0.12**
全リソース	-0.05	-0.06	0.05	0.06	0.05	0.19**

** $p < .01$ * $p < .05$

※市町データについては、総務省統計局「国勢調査」2015年のデータを用いた。

性会員数」, 「活動状況」の3変数を用いた。なお「活動状況」については、現在のクラブの活動状況について「全く活発ではない」～「とても活発」までの5件法により回答を求めており、選択肢の順にそれぞれ1～5点を与え得点化している(表9)。

まず各分野のリソース獲得数と市町データとの関係について確認すると、「安心・安全」分野のリソース獲得数と「総人口」($r = -0.09$), 「人口密度」($r = -0.10$), 「平均年齢」($r = 0.08$)との間に有意な低い相関関係が認められた。次に、老人クラブ内データとの関係について確認すると、「コミュニティ・ガバナンス」分野のリソース獲得数と「男性会員数」($r = 0.13$), 「女性会員数」($r = 0.10$)との間に有意な低い正の相関関係が認められた。また「活動状況」については、5分野全てのリソース獲得数との間に正の相関関係が認められた。

5. 考察

まず、全体のリソースの獲得率については、表7で示したように、獲得率が高かった項目の上位に「安心・安全」分野のリソースが多く含まれていた。これは、老人クラブが居住地域に設立されている地縁組織であるが故に会員同士の関係が近くお互いに多くの情報を共有できていることがその要因として考えられる。第1次集団として日常的にお互いの家族構成や家庭の状況等をある程度把握していることから、火事や事故また災害といった問題が発生した時に誰

がどのようなサポートを必要としているかが明確となり、会員同士の強固なサポート・ネットワークが構築されていることが考えられる。また、避難場所や安否確認の手法に関する情報共有についても、老人クラブ内の会員が同一地域の住民であり避難場所等も共通して認識されていることや、日常的に老人クラブの事業として「防火・防災活動」も相対的に高い割合で実施されていることから（実施率：37.9%）²⁵⁾災害時の情報が共有されやすい環境が形成されていることが考えられる。他方、獲得率が低かった項目としては、「専門知識・技術」分野のリソースが多く含まれていたが、この結果は、「特殊技術を必要とする物理的サポートや専門的な立場の人へのアクセスについては獲得率が低い」という栗島らの市原市における調査結果²⁶⁾と同様であった。したがって、老人クラブに限らず、地域社会という環境は共通して専門知識・技術が必要なリソースは得にくい状況にあると考えられる。加えて老人クラブは高齢会員によって構成されていることからよりこの傾向が強くと示された可能性もある。

次に、地域類型別にリソースの獲得率を比較した結果、「都市部」と「非都市部」の間に有意差が認められ、かつ獲得率の差が大きかった項目のうち上位に「安心・安全」分野のリソースが含まれており（2-3, 2-5, 2-1）、いずれも「非都市部」の方が獲得率が高いという結果であった（表7）。これは「都市部」と「非都市部」では老人クラブ内の社会関係の性質が異なっていることが考えられる。Wirthはアーバンイズム理論において都市に特徴的な社会関係として、親密で個人的な相互面識の欠如、地縁・血縁関係の衰退、環節的・匿名的・表面的・非人格的・合理的・一時的・功利的な関係等を示しているが²⁷⁾、こうした社会関係の特徴により、「都市部」の老人クラブでは、会員間でお互いの家族構成や安否確認の方法等が「非都市部」よりも共有されにくい状況にあることが考えられる。またそれ故に災害等の問題発生時に会員同士で相互援助がしにくい環境が形成されていることが考えられる。同様の傾向が表8でも示されており、「生活満足度」ならびに「安心・安全」の分野において、有意に平均リソース獲得数が「非都市部」の方が高い傾向が認められたが、こちらも都市的な社会関係の特徴がその要因として考えられる。

最後に、各分野のリソース獲得数と各データとの相関関係については、市町

データにおいて「安心・安全」分野のリソース獲得数と「総人口」、「人口密度」、「平均年齢」の3変数との間に有意な相関関係が認められ、「総人口」、「人口密度」とは負の相関関係に、他方「平均年齢」とは正の相関関係にあった(表9)。つまり①総人口が少なく、②人口密度が低く、③平均年齢が高い、市町に所在する老人クラブの方が「安心・安全」分野のリソース獲得数が多いという結果であるが、この3つの特徴はいずれも「非都市部」に該当する特徴であることから、この分析結果についても先述した「都市部」・「非都市部」という地域類型が影響しているものと考えられる。

また老人クラブ内のデータについては、「コミュニティ・ガバナンス」分野のリソース獲得数と「男性会員数」および「女性会員数」との間に有意な正の相関関係が認められた。そこで、「都市部」と「非都市部」における老人クラブの平均会員数を確認したところ有意差は認められなかったことから、「コミュニティ・ガバナンス」分野のリソースについては、地域類型に関わらずそれが得られる環境の人的規模に影響されることが考えられ、人的規模が大きくなるほどより獲得しやすいリソースであるといえる。また、「活動状況」については、6分野全てのリソース獲得数との間に正の相関関係が認められたことから、老人クラブにおける事業等の活動が活発であることが人間関係を形成するとともにサポート・ネットワークをより強固にし、様々なリソースを得やすい環境を醸成することが考えられる。

おわりに

以上、本稿では、三重県に所在する1,675単位老人クラブを対象とした実態調査結果を検討対象とし、リソース・ジェネレーターを用いて老人クラブ会員のソーシャル・キャピタルの測定を行い、その特徴を明確化するとともに、ソーシャル・キャピタルに影響を及ぼす要因について考察を行った。分析の結果、獲得率が高かった項目の上位に「安心・安全」分野のリソースが多く含まれ、他方、獲得率が低かった項目に「専門知識・技術」分野のリソースが多く含まれていた。また、「都市部」と「非都市部」のリソースの獲得率に有意差が認められた項目のうち、差が大きかったものの上位に「安心・安全」分野のリソ

スが多く含まれ、いずれも「非都市部」の方が獲得率が高かった。そして、各分野のリソース獲得数と市町ならびに老人クラブのデータとの関連については、「総人口」、「人口密度」、「平均年齢」、「男性会員数」、「女性会員数」、「活動状況」といった変数との間に有意な相関関係が認められた。

最後に本稿の限界と今後の課題について述べておく。まず本稿の分析に用いたデータは三重県のみで抽出したため偏りがあるといえる。今回の結果が即全国の老人クラブに適用されるものではない。また本調査の対象者が単位老人クラブの代表者であったことから、今後の課題としては一般会員も調査対象者に含めた分析が必要である。また獲得されたソーシャル・キャピタルが、他の会員との人間関係や所属クラブへの愛着、また本人の主観的幸福感等にかなる作用をもたらすのかについてのより詳細な分析も今後の課題としてあげておきたい。

謝 辞

本研究は JSPS 科研費 17K04169 の助成を受けて行われた研究成果の一部です。三重県老人クラブ連合会の皆様をはじめとして、調査にご協力いただいた全ての方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 地域保健対策の推進に関する基本的な指針では、近年の地域保健を取り巻く状況の変化として、少子高齢化の更なる進展や人口の減少といった人口構造の変化、単独世帯や共働き世帯の増加など住民の生活スタイルの変化、がん、循環器疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患等の非感染性疾患（NCD）の増加、健康危機に関する事案の変容などがあげられている。
- 2) 厚生労働省「地域保健法第四条第一項の規定に基づく地域保健対策の推進に関する基本的な指針」。
- 3) 大澤真幸、吉見俊哉、鷲田清一『現代社会学事典』弘文堂、2012年、825頁。
- 4) 牧田満知子、立花直樹編著『現場から福祉の課題を考える ソーシャル・キャピタルを活かした社会的孤立への支援 — ソーシャルワーク実践を通

- じて一』ミネルヴァ書房，2017年，20-21頁。
- 5) ロバート・D・パットナム著，河田潤一訳『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』NTT出版，2001年，206-207頁 (Putnam, R. D., *MAKING DEMOCRACY WORK: Civic Traditions in Modern Italy*. Princeton University Press, 1993.)
 - 6) 稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門—孤立から絆へ』中央公論社，2011年，23頁。
 - 7) ロバート・D・パットナム著，柴内康文訳『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房，2006年，19-20頁 (Putnam, R. D., *BOWLING ALONE: The Collapse and Revival of American Community*. New York: Simon & Schuster, 2000.)
 - 8) 同上，441-442頁。
 - 9) 内閣府国民生活局「平成14年度 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」2003年，28頁。
 - 10) ロバート・D・パットナム，前掲書，2006年，356頁。
 - 11) 内閣府国民生活局，前掲資料，9頁。
 - 12) 同上，37頁。
 - 13) 日本総合研究所「日本のソーシャル・キャピタルと政策～日本総研2007年全国アンケート調査結果報告書」2008年，16頁。
 - 14) 栗島らは，リソース・ジェネレーターについて，30程度の他者に協力を依頼するような具体的な項目を用意し，その協力を得られる知り合いの存在や関係性について質問を行い，回答者がアクセスできる資源の種類を測定するものとしている。
 - 15) 栗島英明，佐藤俊，倉阪秀史，松橋啓介「Resource generator による地域住民のソーシャル・キャピタルの測定と地域評価との関連分析—千葉県市原市を事例に—」『土木学会論文集G (環境)』Vol.71, No.6, 2015年，II_92頁。
 - 16) Webber, M. P. and Huxley, P. J., Measuring access to social capital: The validity and reliability of the Resource Generator-UK and its association

with common mental disorder. *Social Science & Medicine*, Vol.65, No.3, 2007, pp.481-492.

- 17) 栗島英明他, 前掲論文, II_93頁.
- 18) 公益財団法人全国老人クラブ連合会「老人クラブリーダー必携」2015年, 4頁.
- 19) 1996年5月30日に改定されている
- 20) 全国老人クラブ連合会ならびに都道府県・指定都市老人クラブが主唱している運動で, 毎年9月20日を「社会奉仕の日」と定め, 多くの老人クラブで取り組まれている奉仕活動を, 全国一斉に実施することにより, 地域社会に対する感謝と地域の担い手としての活力を示めそうとする取り組み.
- 21) 栗島らが作成したリソース・リストのうち, 1-2, 4-2, 5-1, 5-3については, 調査対象者の状況に合わせて内容を筆者により変更した.
- 22) 農業地域類型区分は, 第1次分類において都市的地域, 平地農業地域, 中間農業地域, 山間農業地域に分類されている.
- 23) 都市的地域の基準指標は, 都市的活動の集積地域における土地利用を代表し, かつ, 変動の少ないDID(人口集中地区)面積の割合を中心とするものとされており, 具体的な指標として「①可住地に占めるDID面積が5%以上で, 人口密度500人以上又はDID人口2万人以上の旧市区町村又は市町村, ②可住地に占める宅地等率が60%以上で, 人口密度500人以上の旧市区町村又は市町村(ただし, 林野率80%以上のものは除く).」と定められている(農林水産省HP「農業地域類型について」: https://www.maff.go.jp/j/tokei/chiiki_ruikei/setsumei.html).
- 24) 回答者の所属する老人クラブが所在する市町の農業地域類型を割り当て分析をおこなった.
- 25) 三重県老人クラブ連合会に加盟している1,081単位老人における本調査時の実施率. 関根薫「新地域支援事業への参画に向けた老人クラブ活動に関する研究」『人間学研究』第17号, 2019年, 33頁.
- 26) 栗島英明他, 前掲論文, II_94頁.
- 27) 久門道利, 杉座秀親編『社会理論と社会システム 第3版』弘文堂, 195頁.

Measurement of the Senior Citizens' Clubs Members' Social Capital and Consideration of Related Factors

Kaoru SEKINE

Abstract

This paper uses the “Resource Generator” to measure social capital in senior citizens' clubs, clarifies its characteristics, and examines social factors affecting social capital. As a result of the analysis, the resource acquisition rate of the “safety and security” category tended to be high scores, and the resource acquisition rate of the “specialized knowledge or skills” category tended to be low scores. In comparison by region type, the resource acquisition rate of the “safety and security” category tended to be higher in the “non-urban area” category. As for the relationship between the number of resources acquired in each category and the data of municipalities and senior citizens' clubs, significant correlations were found between variables such as “total population”, “population density”, “average age”, “number of members”, and “activation of senior citizens' clubs”.

Key Words : Resource Generator, social capital, senior citizens' clubs,
region type